

404 201TL心筋SPECTにおけるWashout Rateの意義
斎藤恒儀、渡辺直彦、菅家直人、矢尾板裕幸、大谷 弘
大和田憲司、内田立身、刈米重夫(福島医大第一内科)

対象は正常12例、36 Segment、冠動脈造影を施行した
虚血性心疾患患者16例、48 Segmentである。Ergometer
による多段階運動負荷心筋SPECTを施行し、4時間後
におけるWashout Rate(WR)と負荷時maxHR及びPRPの関係を
各冠動脈の狭窄度別に検討した。狭窄度はAHA分類に従
いNormal群25%群、50%群、75%群、90%群、99-100%群に
分類した。正常群および虚血性心疾患群で検討した結果
狭窄度が大きくなるに従い診断精度が向上する傾向を認
めたが25%群および99-100%群では一定の傾向が得られな
かった。以上よりWRの判定に際しては、軽度の狭窄の
みでなく、より高度の狭窄部位においても注意を要し、
かつ、maxHRおよびPRPを加味して検討する必要性が示唆
された。

405 負荷心筋シンチグラムにおけるwashout rate
と冠動脈狭窄度の関係

阿部正宏、田谷光一、栗原正人、Chiu Wen Chang、
落合恒明、麦倉素行、阿部敏弘(東京医大霞が浦 循)
宮内兼義、富所忠彦、梅田和夫(同 放)
永井義一、伊吹山千晴(東京医大 2内)

目的: washout rate(WR)の低下度が冠動脈狭窄度を反映
するか否かについて検討した。対象並び方法: LAD 6番
のみにAHA 分類75%以上の狭窄をもつ労作性狭心症15例
にsymptom limitedの運動負荷心筋シンチグラムを施行
した。昨年の本学会にて報告した負荷時最大心拍数による
Predicted washout rate(PWR)法を用い、実際のWRと
比較した。結果: ①全群ともPWR 値より有意に低いWRを
示した。②99%狭窄群は90%群75%群に比し有意に低値
であったが、90%群と75%群間には差を認めなかった。
結語: WRの低下度と冠狭窄度は必ずしも一致しない。

406 ²⁰¹TlCl 運動負荷心筋シンチグラフィの

washout rate に影響を及ぼす因子の検討
植原敏勇、西村恒彦、林田孝平、山上英利、千葉 博、
松尾剛志、三谷勇雄(国循セン放診部)

Washout rate に影響を及ぼす因子について、連続325
症例で多変量解析を用いて検討した。washout rate を
目的変数、肺/心筋摂取比と最大心拍数とDouble
Product を説明変数とする重回帰分析を行なった。各説
明変数はいずれもwashout rate と緩やかな相関を認め
た。また昼食摂取群、高血圧群ではwashout rate は有
意に低値を、透析患者では高値を示した。冠動脈1枝病
変群の検討では、washout rate の正常下限を40%とす
る従来法では、正常部の6%が偽陽性虚血部の44%が
偽陰性になると統計的に算出された。

407 Breast attenuation artifact の運動負荷
時 Tl-201 wash out rate に及ぼす影響

南地克美、紀田 利、藤野基博、鎌 寛之、吉田 浩
(兵庫県立姫路循環器病センター)

24例の女性を対象に、乳房の運動負荷時Tl-201 wash
out rate (WOR) に及ぼす影響を検討した。 LAO
方向で、乳房を心筋領域より排除するように挙上時、及
び自然状態にて撮像し、subtraction image より乳房に
よる心筋像の変化及び、中隔、後側壁にROIを設定し、
乳房挙上前後でのWORの変化を検討した。 subtract
ion image 上、乳房の心筋像への影響は個体差が大であ
った。また挙上前後のWORは、後側壁で、36.2±5.4%
より37.9±6.2%、中隔で36.6±6.8%より38.2±7.4%
と全体としては不変であったが、個々の例での変化率は、
後側壁4.0±1.6%、中隔1.7±1.6%と後側壁で大であ
った。乳房はWORに影響を及ぼす一因と考えられた。

408 運動負荷²⁰¹Tl心筋シンチグラムにおける心
筋梗塞例での再分布の意義

松村泰志、山本一博、平山篤志、朝田真司、大原知樹、
李 正明、岡崎康司、南都伸介、三嶋正芳、児玉和久、
佐々木次郎、林 昌雄(大阪警察病院心臓センター、
*同放射線科)

陳旧性心筋梗塞例における再分布が虚血を表すか否か
を明らかにするために、前壁中隔梗塞例を対象として、
SPECT像から定量評価した再分布量と、冠狭窄度及び心
房ペース負荷時の乳酸摂取率(LER)との関係を検討
した。梗塞例では、再分布量と冠狭窄度との間に有意な
関係がなく、有意狭窄のない例でも再分布を認める例が
存在した。LERは、狭窄が90%以上例では、再分布(+)
例で(-)例に比し高値であったが、50%以下の例では再分
布の有無に関わらず全例負の値をとった。梗塞例におけ
る再分布は必ずしも虚血を表していないと考えられた。

409 左冠動脈肺動脈起始症におけるTl-201心筋シ
ンチグラフィの再分布現象の意義について

富松宏文、近藤千里、廣江道昭、太田淑子、牧正子、日
下部きよ子、重田帝子、(東京女子医大、放射線科)

左冠動脈肺動脈起始症(BWG)の安静または運動負荷
Tl-201心筋シンチグラフィ(Tl)の再分布現象の意義に
ついて冠血行再建術後1ヶ月および遠隔期にTlおよび
Tl-99m心プールシンチグラフィを施行し比較検討した。
その結果、術前灌流欠損の再分布を示した3例では術後
1ヶ月には心筋像と心機能の改善をみた。一方術前に再
分布のほとんど認められなかった1例では術後1ヶ月で
の心筋像と心機能の改善は軽微であったが遠隔期(10
ヶ月)には著明な改善をみた。したがって BWGにおいては
Tlにて再分布が認められない場合でも心筋の viability
は存在している可能性が強く示唆され、冠血行再建術を
施行する意義があると考えられた。